速報

北海道医師会　第168回臨時代議員会

◆令和７年度事業計画・予算を報告。

◆北海道医師会裁定委員補欠１名、日本医師会予備代議員補欠１名を選出。

◇総　務　部◇

松家会長の挨拶

鈴木知事の来賓挨拶

会場の様子１

会場の様子２

第168回臨時代議員会を去る３月16日（日）午前10時、Web会議［Zoomミーティング］併用にて当会館の他、全道の代議員を結び開催した。

冒頭、井門議長の進行により、議事録署名人の指名を行い、会長挨拶、来賓挨拶の後、議案審議に入った。

議案第１号「裁定委員補欠選挙の件」および議案第２号「日本医師会予備代議員補欠選挙の件」では、前号掲載の選挙結果のとおり選出した。

議案第３号「令和６年度会費減免に関する件」では、令和６年度に申請のあった申請者の会費減免を理事者提案のとおり承認した。

続いて、令和７年度事業計画、令和７年度予算の報告を行った。

議案第４号「当面の医療政策に関する件」では、荒木常任理事から詳細な説明があり、本代議員会の名において決議文を作成したい旨の提案がなされ、起草委員会に審議を付託することが了承された。

次に、代表質問ならびに一般質問を受け、理事者からそれぞれ答弁を行った。

◇代表質問◇

１．近　祐次郎　代議員（中央ブロック）

「電子処方箋導入を含む医療DX推進に係る費用負担について」

（答弁者：橋本常任理事）

2．森下　清文　代議員（道南ブロック）
「隔年改定ではもう持たない」
（答弁者：伊藤常任理事）

◇一般質問◇

1．百石　雅哉　代議員（札幌市）
「ベースアップ評価料および次回診療報酬改定についての要望」
（答弁者：伊藤常任理事）

2．伊澤　　功　代議員（札幌市）
「診療報酬加算申請・オンライン申請の簡素化について」
（答弁者：橋本常任理事）

3．佐野　宏行　代議員（札幌市）
「不足するワクチンについて」
（答弁者：三戸常任理事）

4．石坂　　仁　代議員（函館市）
「新型コロナウイルス感染症５類移行後の感染性廃棄物の取り扱いについて」
（答弁者：青木常任理事）

質問終了後、各ブロックの起草委員を議長から指名し、別室およびZoom会議ブレイクアウトルームにて起草委員会を開催した。

その後、起草委員会で検討した決議案（別掲）を採択した（この決議文は日本・都府県・郡市医師会、政府閣僚、政党、国会・道議会議員、知事、道内自治体首長、「日本の医療を守る道民協議会」構成団体およびマスコミほか関係各方面に送付し、各項目の実現に向けて要請した）。

最後に、松家会長より閉会の挨拶を行い、本代議員会の全日程を終了した。

〈事業計画・予算関係、質疑応答等は、順次当会ホームページに掲載予定〉

決　　議

医療機関の経営は危機に瀕している。燃料価格や材料費等の価格が高騰し、さらに職員の処遇改善が求められている中、診療報酬は抑制され、医療機関の経営状況は一段と悪化している。処遇改善もままならず、医療福祉業界の給与は 2020 年を境に全産業平均を下回り、医療機関の人材確保は益々困難になり、診療体制の維持すら厳しい状況となっている。

政界に目を転じると、国民の信頼を失い衆議院で過半数割れとなった自公政権のもとで国会運営は混迷し、国民が真に必要としている社会保障に関する議論はみちしるべを失い迷走している。このままでは、国民の健康をも危機にさらすことになりかねない。

国民の健康は健全な国家を支える基本である。社会保障に必要な財源をしっかりと確保し、国民が安心して生活できる社会を実現することを求める。

医師の働き方改革の施行から約１年が経過し、また、今後は新しい地域医療構想や医師偏在是正に向けた議論が本格的に開始される。本道の地域医療を確実に守っていくためには、各地域の声を丁寧に聴きながら医療提供側と地域住民がともに安心できる医療体制をすべての関係者が協力し合って構築することが重要である。そのために、我々医師は一致団結して全力を尽くす決意である。

その実現のため、以下の事項を強く要望する。

一、　世界に誇る国民皆保険を堅持すること。
一、　社会保障の財源を十分に確保すること。
一、　控除対象外消費税問題の抜本的解決を行うこと。
一、　医師の働き方改革は、医師の健康と地域医療がともに守られるものであるよう、状況に応じて柔軟に制度設計の見直しを行うこと。
一、　メディカルウイング（患者搬送固定翼機）の運用にあたっては、社会的ニーズに対応可能なように十分な支援を行うこと。
一、　災害発生時や新興・再興感染症の流行時は、適切な医療提供体制が維持できるよう医療機関に対し十分な支援を行うこと。
一、　北海道の次代を担う若い世代が、希望をもって医師を志すことができるよう地域医療体制と医師のキャリア形成を充実させること。
一、　医療 DX の推進においては、利便性や効率の追求のみならず医療提供者と患者の双方に不利益や過度の負担が生じないよう、十分に配慮すること。

令和７年３月 16 日

一般社団法人北海道医師会
第 168 回臨時代議員会